

朝来市地域おこし協力隊  
「あさこいひと」レポート  
2019

Since 2017

TOMOHIRO HORINOUCHI  
TAKASHI NAKAIE

Since 2018

SHINJIRO KANAMARU  
CHIA NISHIMURA  
RYO TAGUCHI  
MASAKAZU SUWA

# ASAKOIHITO

---

# REPORT

---

# 2019

---

**P2 TALK SESSION**

堀之内智裕 × 中家宜嗣 × 金丸真次郎

**P5 NEW MEMBER 1**

西村知亜

**P6 NEW MEMBER 2**

田口亮

**P7 NEW MEMBER 3**

諏訪正和



朝来市



地域おこし協力隊(以下協力隊)のことは以前からご存知でしたか？

中家さん(以下、中家) いいえ、全く知りませんでした(苦笑)。2017年初頭に東京であった移住定住イベントで朝来市のブースがあつて、そこで朝来市のこと、そして協力隊のことを教えてもらったんです。

中嶋さん(以下、中嶋) そのとき僕も行ってまして中家さんとお会いしました。金丸さんは吉原さん(協力隊OB)との出会いがきっかけでしたね。

金丸さん(以下、金丸) かねてから地方へ移住しようと思っていて、田舎での生業なら農業かなと、ワークスタイルを模索していました。朝来市は農業事業者への支援が手厚いので、何度か見学にも訪れました。たまたま移住定住イベントに行った際に吉原さんが来ていて、協力隊の制度、狩猟というワークスタイルを知ったんです。

中嶋 吉原さんも良い人が来たこと喜んでました。堀之内さんは大雪の中をはるばる朝来市まで来ていただいた。

堀之内さん(以下、堀之内) そうでしたね(笑)。協力隊の制度は昔から知っていて、SNSを通じて活動内容も見てましたよ。

これまでの仕事、生活を捨てるというのはチャレンジです。二の足を踏みませんでしたか？

中家 そりゃ二の足を踏みますよ。給料が高い訳でもない。そして任期はたったの3年。でも妻が「なんとかなるよ。」と言っていて。それが大きかったですね。

堀之内 僕も妻の理解が大きかった。「やってみたら？」と言ってもらえたのが最終的な決断に繋がりました。

中家 頑張ります!(笑)

金丸 僕は市役所農林振興課で獣害対策に関わって1年が経ちました。今後は2つの分野に取り組みたい、と思っています。1つはミッションである獣害対策関係の仕事を続けていくこと。そしてもう1つはアパレル業界での経験を活かし、鹿の角で作ったアクセサリブランドの立ち上げや古着のビジネスをインターネットで展開していくことです。こっちは、今のミッションである獣害対策とあんまり関係ないやんって突っ込まれますが(苦笑)。

中家 退任後の生業まで今のミッションに縛られる必要はないんじゃない？

金丸 そうですね、でもどうせやるんだつたら獣害対策の一環である狩猟に関連した生業をやっていたらと思ってます。

中嶋 今、若い世代でも狩猟に興味がある人は多いと思います。そんな人たちをターゲットに金丸さんが提案するおしゃれな商品やアイテムを取り揃える。元アパレル店員の狩師がバイヤーのセレクトショップみたいなものも面白いですね。隊員のみならずは起業家としての意欲がすごい。だから新しい産業を興すほうが良いなど僕は思っています。

ただ、協力隊である以上、ミッションに時間を割かざるを得ない状況があり、退任後の起業に向けた準備が難しそうですね。

中嶋 課題を明確に持っている地域では隊員とミッションへの期待値も高いですから。隊員、ひいては移住者を受け入れる地域も、ほどよい距離感の取り方というものを考えていかないといけない。移住しづらい地域であつてはいけないんです。これは今後、考え

# TALK SESSION

朝来市地域おこし協力隊として  
ミッションに取り組む中で見えてきた朝来市のこと。  
朝来市役所職員も交えて語る、  
ありのままの「現在」。

ていかなければならない点だと思っています。

中嶋さんは常に隊員の側に立ち、親身にサポートされておられます。隊員の皆さんから見て、バックアップしてくださる市役所や地域の方々についてはいかがでしょうか？

中家 僕は中嶋さんや関係部署の方々が部署異動になったらどうしようかと…逆に言えばそれくらい手厚いサポートをしていただいていますね。

金丸 僕も市役所が中立なスタンスでいてくれて、フラットな意見、アドバイスを言ってもらえるので助けられていますね。スイスイみたいなもんですよ(笑)。

市役所の担当課の雰囲気や職員の方のキャラクターもあるんでしょうか。気軽にコミュニケーションを取りやすそう？

中家 心強くて、言ったら何とかなるんじゃないかと。僕はかなり色々無理なお願いをしているのですが、ちゃんと耳を傾けてくださる。

なるほど。では隊員同士の接点や連携などは普段からありますか？

中家 べつたりではありませんが、適度にありますよ。

金丸 僕は例えば野菜のことであればあの隊員とあの隊員に…と、相談を持ちかけます。中家 大阪で野菜を販売してきました。いろいろ…ということがあったね。僕は多方面から色々なお話は貰うことがありますが、自分の分野じゃない場合は他の隊員に振ります。農業関係だと堀之内さんをお願いしたり。堀之内 そうですね。隊員同士、得意な分野が違うので、互いに補い合っているところはあると思います。

隊員同士、得意分野が違うので、  
補い合っています。(堀之内)

朝来市総合政策課 地域おこし協力隊 地域おこし協力隊 地域おこし協力隊  
中嶋 大介 × 金丸 真次郎 × 中家 宜嗣 × 堀之内 智裕  
DAISUKE NAKASHIMA SHINJIRO KANAMARU TAKASHI NAKAIE TOMOHIRO HORINOUCI



金丸 僕はこれまで芸人、アパレル業界と、自分のやりたいことにチャレンジしてきました。これからもそうありたいと思って飛び込みました。妻も周囲も僕の性格を知っているで「だったらやってこい」と。堀之内さんと中家さんは任期最終年度となる3年目を迎えられる。今後のプランなどは？

堀之内 僕のミッションは地元農産物加工所のコーディネート業務でしたが、退任後は就農を考えています。現在は研修先を探し始めています。

中嶋 農業後継者の不足は、市全体の大きな課題です。退任後、就農に向けて考えていただいているのは、とてもありがたいです。地域の方とも相談しながら進めていただ

たらと思います。

中家 僕は当初の所属とミッションからあえて離れ、退任後に向けた動きを本格化させています。現在は借りている空き店舗を多目的な空間としての展開を模索中。地方は都市部に比べ、全ての流通量が少ない。呑める雑貨屋、あるいはセレクトショップ。楽器教室が候補ですね。カルチャーを、実際に観たり聴いたり体験して購入できるような場所にしていきたいと思っています。

中嶋 確かに「体験」まではネットで買えませんからね。中家さんはイベントを開催して50人以上の人をさらっと集めてしまえる。これまで市内でそんなイベントはありませんでした。そういう意味でも朝来市で新しいことを提案し続けている人だと思っています。

協力隊として活動する中で感じていることなどありますか？

中家 僕ら隊員は一念発起して、朝来市にきました。都会に疲れたから田舎で暮らそうっていうマインドで移住すると、「想像していた田舎での生活と違う！」ってなると思う。ミッションにも楽なものはないですから。

中嶋 ミッションの限界はあるかもしれないけど、今後は、少し比重を軽くしていくほうがやりやすいと思います。そのあたりは隊員の皆さんのアドバイス聞きながら変えていけたらと思っています。

堀之内 地域のことを何も知らない移住者が、これまで地域住民でも解決できなかった課題に取り組む。さらに3年後は自立…そのハードルはとても高いと思います。僕の場

合話を聞いてもらうために、1年目は地域との関係構築に費やしました。

中家 僕は期待も込めて「風穴を空けてほしい」と言われました。とは言うものの、大変ですよ。地域から「誰？」って思われた状態では、意見も通りません。

中嶋 だいぶ風穴は空いたと思います。中家さんの活動・行動のスピード感は速い。中家 だって、ゆっくりしてたらあつという間に3年目の終わりになってるでしょうし。

堀之内 うん、3年は短い。僕たちには3年「しか」ない。とにかく時間ありません。金丸 僕にもそのまま当てはることですね。僕はさらに一歩前の段階からのスタートでした。仕事柄、関わる人は年配の猟師の方が多いいんですが、まず会話の中で

「都会に疲れたから」という理由での  
地方移住はお勧めしない。(中家)





## NEW MEMBER 1

CHIA NISHIMURA 西村 知亜

『よそもの』であることはメリット。私には2つのミッションがあります。1つ目は黒川地区の活性化。移住者を増やし過疎化を食い止めること。2つ目は地区内にある黒川温泉の経営改善です。現在、地区の方は温泉へはあまりいらっしやらない。また、黒川温泉の従業員にも地区の方はいないという

「じゃあおいでよ！」と。この地で生業を興すスキルや資格が無いからと、ためらいもありましたが、一緒に何かやろうと言ってもらえることが嬉しかった。人生、やりたくても出来ないことがいっぱいある。「これが最後のチャンス」と思ったんですね。地域おこし協力隊の制度を使えば生業を興しつつ、黒川地区での生活を営むことができるということ、何よりも大好きなこの地区の活性化のお手伝いが出来る喜びで応募し、採用となりました。

「黒川地区で一緒に何かやろうよ」そのひとことが嬉しかった。21歳から29歳まで千葉で過こし舞台美術などの仕事も経験。29歳で実家のある大阪へ戻り、父と家業を切り盛りしていました。そんな折、知人の所有するログハウスが生野町黒川地区にあるということで遊びに訪れたことが、朝来市そして黒川地区との出会いでした。それがきっかけでその後黒川地区を訪れるように。あるとき地区内を歩いていると住民の方から声をかけられ、『黒川暮らし体験会』に参加しました。その頃には『いつかは田舎で生活したい』という思いも芽生えていて、そのことを話したところ、

1. 2. 3. 1.2. 『暮らし体験会』では都市部からの参加者を古民家やログハウスにアテンド、移住後の生活をイメージしてもらおう。/3. 黒川温泉の従業員として、活性化に取り組む。

**PROFILE**  
大阪府松原市出身。千葉県で舞台美術などの仕事を経て、大阪府へ帰郷。家業を継ぐ。2018年7月より朝来市生野支所地域振興課と黒川温泉の2カ所へ赴任。黒川地域の活性化、移住定住支援と黒川温泉の業務にも携わる。

私は周囲の方から「人との縁に恵まれている」と言われることが多くて。移住して間もないですが仲間と呼べる存在も増えてきました。地区の方からすれば『よそもの』かもしれないですが、それをメリットと捉え、移住希望者にとってのサポーターでありたいとも思っています。「なんとかなるかな」と思って(笑)、この場所の後悔のないよう自分の人生を切り拓いているところです。

状況です。ミッションは2つに別れています。が、これらは切り離せない、密接に関連した事柄なんです。私は黒川温泉に従業員として勤務する傍ら、定期的に『暮らし体験会』を村の有志の皆さんと開催しています。都市部在住の方に地区内をご案内し、空き家改修の現場を見ていただいたり、住民の方との交流や飲食の提供などをおこなっています。また民泊事業にも取り組んでいる最中で、今後は地区内の空き家やログハウスを宿泊施設として活用する予定です。これについては地区だけでなく黒川温泉サイドにも関わってもらうことで、地区と温泉とを結ぶことができれはと考えています。



中立な立場からのアドバイスがありがたい。(金丸)

「方言」が分からなかった。さらに地名も道順も知らない。この1年は大変でした。中家 例えば企業の一人として全員が同じ方向を向いているなら簡単なことなんです。でも地域課題やミッションというのは、自分にとっては仕事ですが地域住民にとっては暮らしに関連することなので。皆さん一人一人の意見も違うその中で、ミッションを進めて解決するというのはとても大変な

ことです。堀之内 協力隊には2パターンあるように思います。1つは中家さんみたいに今までやってこられたことを地域で展開するパターン。もう1つは地域で新たにチャレンジするパターンです。私は後者のほう。だから走りながら必要なスキルを身に付けていくことと思っています。金丸君も近いのかなと思う。

中嶋 そうですね。地域への関わり方活動の展開など、隊員一人一人のキャラクターが出るものだと思います。地方でのライフスタイル、ワークスタイルはポジティブな面ばかりがフォーカスされがちですが、その反面、実際に経験された方が分からない側面というものもあることを教えていただきました。このたびはどうもありがとうございました。

### 中嶋 大介

兵庫県朝来市出身。陸上自衛隊少年工科学校(現:陸上自衛隊高等工科学校)卒業後、大学を経て1998年に山形県役場に入庁。2014年地域おこし協力隊導入時は和田山地域振興課で、2016年からは総合政策課で、それぞれ隊員のサポートをおこなう。

### 金丸 真次郎

大阪府高槻市出身。美大を卒業後、お笑い芸人を経て、アパレルメーカーに入社。ショップスタッフ、店長を経て、2018年1月より朝来市産業振興部農林振興課に赴任。有害鳥獣対策に携わりながら、鹿の骨を再利用したアクセサリーの商品開発も手がけている。

### 中家 宣嗣

大阪府豊中市出身。専門学校で音楽を学び、卒業後も会社員と音楽活動を並行しておこなう。東京の企業に勤務のち、2017年4月より粟鹿地域自治協会の理事に赴任。現在は朝来市山支所に在籍。空き物件で音楽教室やイベントを開催し、利活用の方法を模索中。

### 堀之内 智裕

大阪府枚方市出身。メーカーの商品開発部で設計、商品開発、海外拠点での技術顧問、管理職を歴任。2017年4月よりいくの地域自治協議会に赴任し、地元農産物加工所のコーディネーターや商品開発に携わりながら、自身の農業分野への事業拡大を展開中。





## NEW MEMBER 3

MASAKAZU SUWA

### 諏訪 正和

2年後、任期を終えて帰国した自分に、友人から「中高生のための学びのサードプレイスのコーディネーター」というすくく諏訪に向いている仕事がある」と勧められました。それが朝来市の地域おこし協力隊の要請のひとつでした。率直に僕自身も「自分向きだな」と感じました。生野町の元協力隊員だった今村さんから東京でお話をうかがう機会もあり、次第に気持ちも固まってきました。その後、初めて朝来市を訪れ、生野町周辺を車で案内していただきました。正直な印象は「田舎だなあ」と。都心部まで距離も時間もかかります。でも求められている活動内容に魅力を感じ、この場所ですら自分らしくやれそうだと決心できました。

僕の考えるサードプレイスは『ただ、居ていい場所』。美術系の高校に進学し、大学も美術大学に進学しました。以来、自分にとって芸術は切り離せないものとなっています。卒業後、大人を対象にした絵画教室の講師を10年ほど続けました。その傍ら、子どもを対象にした造形教室にも関わることになりました。子どもたちは固定概念に邪魔されることなく、感性のままに表現します。何より僕自身が教えていて楽しかったというところもあり、だんだん大人より子どもとの活動が増えていきました。そのままでも充実していましたが、刺激と変化が欲しかったんですね。そこで青年海外協力隊に応募したんです。エジプトの環境庁に配属され、環境教育の気づきを育む教材を自作し、小中学校を巡回しました。

- 1.
  - 2.
  - 3.
- 1.2. 生野町内のホールで放課後にサードプレイスを開設。小学生から高校生まで幅広い年代とコミュニケーションをとる。/3. 駅の待合室で中学生と共にひな祭りのデコレーションをおこなう。

#### PROFILE

東京都葛飾区出身。幼少時代より絵画が得意で美術系大学へ進学。絵画教室の講師を務めたのち、青年海外協力隊としてエジプトへ。帰国後、2018年8月より朝来市総合政策課に赴任し、中高生を対象としたサードプレイスの開設に携わる。

生野には2018年8月に着任しました。主なミッションはサードプレイスの開設・運営ですが、そこに集う中高生と地域の大人たちを結びつけることも僕に求められていることのひとつです。実はサードプレイスというものが何なのか、僕自身も掴みきれておらず模索している部分があります。中高生の自発的な気持ちを大切にすることで彼らの主体性を伸ばすという大切な目的もありますが、「こんな子どもが望ましい」という大人側の想いが強すぎると、子どもたち自ら大人の求める像に寄せていってしまう恐れがある。だから僕の考えるサードプレイスとは「誰でも来られる場所」。来る人を定義したくないんです。「ただ、居ていい場所」であるということが大切だと感じています。それがこの半年で気づいたことです。僕は『先生』じゃない。だから子どもたちには名字の「諏訪」をもじって「しゅわわ」と名乗っています。今後はここ生野マインホールを、中高生をはじめ子どもも大人も気軽に繋がることのできる場所にしていきたいと考えています。

## 田口 亮

RYO TAGUCHI

## NEW MEMBER 2

現在、山東町と布土地域で耕作放棄地を管理する事業を、法人を立ち上げて取り組むミッションに携わっています。田畑は一度放棄されるとその後、引き継ぐことも難しい。このままでは景観の維持、集落の維持にも支障が出てきます。しかしちょうど今、地域の住民の中には耕作放棄地をなんとかしたいという機運の高まりがあるんです。その課題に向かって皆さんが一丸となれるの

潤滑油となつて、このまちの農業を全国区に  
これまで大阪のメーカーに勤務、営業職だったため全国出張で飛び回る日々を送っていました。30歳になった頃、新しい学びを得たいと思い始め、気軽な気持ちで、農業を学べる社会人学校へ通うようになりました。ここでは農業という世界を俯瞰から、また専門的に学ぶことができ、世の中には農業に関わる様々な職業、チャンネルがあることを知ったんです。また卒業後に農業の道へ進んだ同窓生たちからも刺激を受けました。農業に関連する職業を調べている中、朝来市地域おこし協力隊の募集を見つけ、大阪で開催された移住フェアでも朝来市役所の担当者や移住者の先輩方のお話を聞くことができました。その後も朝来市に泊まりがけで訪れ、移住者や起業家の方からお話を聴く中で、年齢が近い方々が活躍できる土壌があることを知り、決心。退職し、試験を受け、採用となり2018年7月に着任となりました。

- 1.
  - 2.
  - 3.
- 1.2. 農業法人の設立に向けた勉強会を開催。地域住民や市役所職員を交えて、活発な議論をおこなう。/3. モアで緑肥を刈り、土壌を改良する。

#### PROFILE

大阪府和泉市出身。塗料メーカーに勤務し営業職として全国を飛び回る。朝来市地域おこし協力隊として、かねてより関心の高かった農業分野への転身を果たす。2018年7月より与布土地域自治協議会に赴任し、農業法人の設立支援に携わる。

が、この地域の素晴らしいところ。そのためにも法人を立ち上げ、これらの問題の解決を図っていきたく思います。僕の役目は人と人との潤滑油になること。農業は未経験ですが、俯瞰で状況を見ながら立ち回っています。かつての会社員時代のように、全国各地を飛び回り、様々な農業の事例をリサーチ。そこで得られた知識、方法論を地域の方々に伝えたり、アドバイスをさせていただいているところです。

朝来市の協力隊は現役・OB・OGを含めかなりの人数が朝来市内で活動中です。OB・OGの隊員からは生活面でのアドバイスもいただいています。現役の隊員とは共通の趣味からイベントを開催し、広がりも生まれてきています。『朝来市地域おこし協力隊』の肩書きがあることで、市民の方にも受け入れていただけたら、異業種の方とも繋がったりすることができました。同世代が結びつくことで新しい何かが生まれてくるのが今の朝来市。そんな魅力あふれるこのまちを、農業分野で全国区に押し上げていきたいらと、僕は思っています。





あなたはまちの未来  
**ASAGOiNG**



朝来市

朝来市市長公室総合政策課  
〒669-5292 兵庫県朝来市和田山町東谷213-1  
TEL. 079-672-6110  
[www.city.asago.hyogo.jp](http://www.city.asago.hyogo.jp)

Publisher: 朝来市市長公室総合政策課  
Art Direction/Photograph/Design: 木村 淳